

ドイツにおける幼児期のカリキュラムに関する研究

名古屋市立大学大学院 内田 将平

この度は、若手会員派遣支援を賜り、2019年7月に台湾で開催された第20回環太平洋乳幼児教育学会(The 20th Pacific Early Childhood Education Research Association International Conference : PECERA)にて ”How does the German ECEC teachers understand the national curriculum?“というタイトルでポスター発表を行いました。

本研究は、約2年間にわたって、ドイツの西部に位置するノルトライン・ヴェストファーレン州にある公立の保育施設に勤務する保育者を訪ね、ナショナルカリキュラム(ノルトライン・ヴェストファーレン州の2016年版のカリキュラム)をどのように捉えているのかについてインタビュー調査を行い、そこで得られた語りのデータを質的データ分析法である「Steps for coding and theorization (SCAT)」を用いて分析したものです。その結果、保育者が乳幼児期の子どもに志向するコンピテンシー観は、認知能力と非認知能力を包括する能力という点でナショナルカリキュラムの記述内容と一致しました。しかし一方で、子どものコンピテンシーを発達させていこうとする日々の保育実践においては、保育者によってナショナルカリキュラムの参照・活用状況が多様(①実践経験の蓄積による非参照行動、②時間捻出困難による非参照行動、③対保護者エビデンスツール、④対子ども観察・気づき・評価ツール)であると明らかになりました。

発表時間中には、台湾や韓国など、他国の研究者の方から多くのご意見・ご質問をいただくことができました。その際に、日本とドイツという比較・検討だけでなく、他国のカリキュラムの現状や今後のカリキュラムのあり方などについても議論することができ、より広い文脈で本研究を位置づけることができました。さらにそれらを通じて、園の文化や地域の特性を超えて、カリキュラムがすべての保育者にとって有効なものとして機能するための知見を得ることもできました。

今後は、国際学会で発表するだけでなく、その研究発表を英語やドイツ語で論文としてまとめいくことができるように、より一層精進していきたいと思えます。